

授業改善推進中期プラン 国語〔小学校第4～6学年〕

昭島市立拝島第三小学校

学年等		項 目	内 容
令和6年度第4学年	令和6年10月	学習に関する児童の実態・課題	○物語文や説明文の音読は、好んで読もうとする児童が多く、家庭学習においても取り組む姿勢が見られる。また、読書好きな児童もいて、読書旬間にすすんで取り組む児童も多い。 ▲作文や感想、日記などの書くことの学習において、言語の知識が乏しいこともあり、文章力が弱い傾向にある。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	・言語活動に関心をもち、主体的に話し合おうとする力 ・説明文や物語文などの長文の内容を読み取ったり、言語の意味を調べたりして分かったことを自分の考えとして書く力
		具体的な授業改善の方策	・言語活動において、分からない言語事項は図書室を活用して調べる機会を増やし、分かったという達成感を味わえるような経験を増やす。また、読書に親しむ時間を意図的に設け、より多くの語彙に触れさせていく。 ・物語文や説明文の読み取りでは、話し合いの活動を取り入れ、児童が主体的に話す場を設定し、自分の読みだけではなく、他者との交流を通して共有し、深い読み取りができるようにする。学習したことを書く作業を取り入れ、学習したことが視覚的に残るようにノートやワークシートを活用する。
	年度末	第4学年における児童の達成度と第5学年に向けての課題	○読書旬間での実行委員による読書に向かわせるための活動や、詩の暗唱などの取り組みにより読書量が増加し、それにともない語彙の量も少しずつ増えてきた。また、話し合いの場面を意図的に設けていく中で、お互いの考えを交流し、共有しようとする児童が多く見られるようになってきた。 ▲調べたことなどの意味が理解できないまま書き写すだけになってしまい、うまく伝えることができない児童が多く見られる。自分の言葉にして発信していく力を付けていけるとよい。
令和7年度第5学年	令和6年10月	学習に関する児童の実態・課題	○物語文や説明文の学習では、登場人物や内容に興味をもち、意欲的に読もうとする姿が多く見られる。話し合い活動でも、友達と意見を共有しようとする主体的な姿勢が育っている。 ▲既習漢字でも正しく書けず、語彙や表記の定着が十分でない。また、問いをもって読む経験が少ないため、発言や話し合いが表面的になり、他者の意見を基に自分の考えを深めることが難しい。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	・言葉の意味や使い方を理解し、文や段落の構成を意識しながら、自分の考えを正確に表現する力を育てる。 ・文章を読むときには、登場人物の思いや筆者の考えを的確に捉え、言葉や表現の工夫に着目しながら、自分なりの問いをもって読む力を伸ばす。 ・話し合いの場では、友達の考えを受け止め、根拠をもって意見を述べ合い、考えを広げたり深めたりする力を身に付ける。
		具体的な授業改善の方策	・語彙力・表記力の定着を図るために、短時間での漢字学習や語彙に着目した言語活動を継続的に行う。 ・物語教材では、言葉や表現に注目しながら問いをもって読む活動を位置付け、自分の考えを広げる読みを促す。 ・話し合い活動では、「聞く・つなげる」視点を明確にし、互いの考えを関連付けながら深める対話を意識させる。
	年度末	第5学年における児童の達成度と第6学年に向けての課題	・語彙や既習漢字の定着に課題が見られる。 適切な語彙や表記を用いて自分の考えを正確に表現する力の育成が求められる。 ・問いをもって文章を読み深める経験が十分ではない。 根拠を明確にし、他者の意見と関連付けて考えを深める力の育成が求められる。
令和8年度第6学年	令和7年10月	学習に関する児童の実態・課題	○物語文や説明文の学習では、自分なりの考えをもち、ノートやワークシートにまとめることができる児童が昨年より増えた。 ▲自分の考えを書くことはできるが、友達に分かりやすく伝えたり、相手の意見を受けて考えを深めたりすることに課題がある。また、語彙や既習漢字の定着にも個人差が見られる。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	・言葉の意味や使い方を理解し、適切な語彙を用いて自分の考えを表現する力を育てる。 ・文章を読んで考えたことを根拠を明確にして伝える力を育てる。 ・話し合いを通して互いの考えを比較・関連付けながら、自分の考えを深める力を身に付ける。
		具体的な授業改善の方策	・自分の考えを伝える機会を意図的に設定し、根拠を明確にして話したり書いたりする活動を充実させる。 ・物語文や説明文の学習では、根拠を基に考え、交流を通して考えを深められるようにする。
	年度末	小学校6年間のまとめと中学校への引継事項	